

荒川将来像計画 地区別計画 有識者ヒアリング
東京家政大学 宮本 康司先生
議事要旨

■日時：令和 6 年 10 月 29 日（火）13:00～14:30

■場所：東京家政大学

	No.	発 言	回 答（ 当 日 発 言 ）
戸田市	M1	上流部の土砂仮置場は、今後移転するのか。	現在荒川下流河川事務所の工事で使用されているものである。今後工事の状況によって変わってくる。
	M2	自然地が多いのは、ボート場が含まれているからか。	ボート場は集計外である。
	M3	近隣住民の環境学習等教育の場としての使われ方はしているか。少ない印象を受けた。	本計画の対象外だが、彩湖グリーンパークなど笹目橋より上流にはある。
	M4	川に携わる NPO 団体や市民団体はいるのか。	イベントを開催してくれそうな NPO 団体は2団体ある。
川口市	M5	ゴルフ場の利用者が多いのか。収益は上がっているか。	ゴルフ場の利用者は多い。ゴルフ場には初心者コースがあり、初心者でも親しみやすい。独立採算制で収益も上げている。
	M6	ゴルフ場の維持管理に除草剤等は使用しているか。	祭り等も開催しており、子供たちが寝転んだりするエリアであるため、できるだけ除草剤はまかないようにしている。
	M7	一般の利用者もゴルフ場から川へ近づけるのか。	金網があり、ゴルフ場の利用者しか川へは入れない。
	M8	ゴルフ場の水際がもったいない。ゴルフ場を利用しなくても入れるようにするのがよいのではないか。	祭りや小学校低学年を対象とした水辺の楽校を開催しており、学校と連携して水辺に入れるようにしている。
	M9	一般開放日はないのか。	年に一回、荒川ふれあい祭りのときに一般開放している。
	M10	今後もゴルフ場で収益を上げながら、子供たちも川に触れ合えるようにしていただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	M11	舟戸・河原町ブロックの川口リバーステーションの「水辺散策の整備」とは何を予定しているのか。	今後、高規格堤防の完成を見据え、活用方法について検討していく方針。

	No.	発 言	回 答（ 当 日 発 言 ）
北区	M12	各ブロックによって利用形態は違うのか。	北赤羽ブロックは主にゴルフ場となっており、豊島ブロックは整備が終わっている。赤羽岩淵ブロックは、まちづくりと関連してにぎわいを創出かつ自然地をどう保護していくかといったところが地区別計画改定の肝である。また、荒川通水 100 周年を記念して、旧岩淵水門が重要文化財となり、資産として多くのものがある。
	M13	土日、連休の利用状況をふまえて、駐車場は十分確保できているか。	バーベキュー場が大盛況で駐車場がかなり埋まっている状況である。一方、野球場周辺の駐車場は十分である。下流の豊島ブロックは、陸上競技場と自然地を整備しているが、そこにおいても駐車場は確保できている。
	M14	豊島ブロックにおける増水時の対応はどうなっているか。	令和元年の台風 19 号時には河川敷は浸水しており、空振りであったが、今年の 8 月末の洪水時にも構造物を撤去する形で対応した。構造物は洪水時には撤去するよう占用時に荒川下流河川事務所より指示されている。
	M15	近隣の学校の子供たちや家族づれ等の利用者はいるか。	常に人がいる状態であり、北区・子どもの水辺協議会も定期的に活動している。今月中旬にかいぼりも実施させていただいた。
	M16	水門周辺は、史跡巡り等の利用もあるのか。	水門周辺は利用地としており、中心部は、地元の方の協力もいただきながら、かわまちづくりでにぎわいの誘導をしたいと考えている。その一環で史跡巡りや遺産のポテンシャルを活かした取組を考えている。
	M17	外来種に手を焼いていると聞いているので、対策を進めてほしい。	当日は意見として伺い、回答なし。
葛飾区	M18	一番下流側は利用施設が小間切れにあるが、アクセス等の不便はないのか。利用は区内の方が多いか。	特に不便はないと考えられる。葛飾区は川裏が住宅密集地のため、利用施設が多いことが考えられる。小菅・堀切菖蒲園ブロックの中央部分に駐車場がある。基本的に区内からの利用である。
	M19	教育での利用はされているのか。	積極的に利用はされていない。
	M20	教育での利用で使うことができればよいと思う。小さいころから自然に親しんでほしいと思っている。マイクロバスが駐車できるようなところがあるとよい。	中学校を対象にクリーン活動を行っており、継続していきたい。

	No.	発 言	回 答（ 当 日 発 言 ）
葛飾区	M21	イベント等で活用されているか。	駅伝やランフェスタ、広場を活用した凧揚げ等で地域の学校が利用している。
	M22	イベント等でキッチンカー等の許可は行っているか。それを目当てに近所から人が来ることも考えられる。	現状ではない。
墨田区	M23	墨田区は利用施設が多いと感じた。	明治時代から工場地帯、住宅地が形成されたが、まちの中に野球場や公園等のスペースが確保できなかったため、貴重なオープンスペースである荒川の高水敷を活用し、野球場や公園等の面積が増えたという歴史的な背景がある。
	M24	小中学生が自然観察をできる教育の場として使われている事例はあるか。	八広水辺公園等で自然観察ができる場所がある。一方で、マイクロバスを河川敷に駐車できる場所はないため、河川敷外に駐車してもらうということになっている。なお、事前に調整いただければ、河川敷内に駐車の手配はできる。荒川水門エリアについては、自然体験ができるゾーンとして考えていたが、財政的な問題で現状はできない状況であり、自然保全地とした。
	M25	若い家族がすぐ川へアクセスできるようになれば良いと思った。野球場やサッカー場を利用しない世帯は利用しづらい。自然系ゾーンと利用系ゾーンの間に駐車場ができれば、どちらも利用することができる。	墨田区は市街地が荒川に近いので、住民は利用施設に限らず荒川を利用していると考えている。今後荒川下流河川事務所と調整して検討を進めていきたい。
江東区	M26	多目的地は草が膝くらいまで伸びている状況なのか。	草は長く伸びていない。走って遊べるような場所である。
	M27	漂着ごみは多いか。	多少はあるが、多い印象はない。
	M28	干潟はありそうだが、マイクロハビタットのような場所ではなく、すっきりした感じなのか。	その通りである。エコスペースは、背の高い草が生えている。
	M29	教育利用はされているのか。区内の他部とも協働して教育委員会等のイベントや人の目が向くような利用ができればよい。	NPO団体等が区民向けや小学生向けの体験学習等を開催しており、利用されている。

	No.	発 言	回 答（ 当 日 発 言 ）
江東区	M30	計画改定で変更になった点を教えていただきたい。	使い方はあまり変更がない。課題としては、外来種の増加、維持管理である。活動されている方は高齢のため、今後どう活動していくかが課題である。
	M31	過去に被災はあるか。	近年はないが、災害体制は準備している。
江戸川区	M32	左岸（中堤）ブロックは、人は通れるのか。また、車は入れるか。	人は行き来できるが、車は入れない。
	M33	車を入れるのは難しいのか。今後、どこかで区切って車を入れることは考えていないのか。例えば、バーベキュー場を作る等が考えられる。	今は関係者のみに制限しており、今後とも考えていない。バーベキュー場は、小松川ブロックにある。左岸ブロックは、管理できる人がおらず、利用方法が課題である。
	M34	荒川ロックゲートでイベント等は開催していないのか。利用についてどのようなことを考えているか。	荒川通水 100 周年で、カウントダウンフェスを行った。荒川下流事務所とも連携して、荒川ロックゲート周辺のにぎわいづくりに関する勉強会を開催している。江戸川区としてはまちなかでできない、スケートボードパーク等の利用ができないかと考えている。
	M35	平井ブロックの利用状況はどうか、賑わっているか。	土日人が多い。広場部分も広いので、様々な利用がされている。イベント等も行っている。
	M36	教育利用はされているか。	平井ブロックがメインとなるが、下平井水辺の楽校等で利用されており、今後も継続したい。荒川のクリーンエイドで、年に 1 回、小学校 4 年生が環境学習とゴミ拾いを行っている。
全般	M37	地区別計画は、自治体ごとに内容を揃えるようにしているのか。それとも、自治体ごとに特徴があるようにしているのか。	共通項目（維持管理の考え方、ゾーニングの考え方等）については、全自治体揃える形で反映していただいている。個別項目（川づくりの考え方、施策等）については、自治体ごとの特徴に応じて検討していただいている。

	No.	発 言	回 答（ 当 日 発 言 ）
全般	M38	想像していたより自治体ごとに利用形態が違っていた。河川敷がつながっているところや対岸の河川敷等との接続を考え、利用面での融通など連携ができればよいと思う。今後自治体同士で連携いただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。

荒川将来像計画 地区別計画 有識者ヒアリング
 東京大学 加藤 孝明先生
 議事要旨

■日時：令和 6 年 10 月 30 日（水）10:00～11:15

■場所：WEB 会議

	No.	発 言	回 答(当日発言)
葛飾区	K1	他区もそうだが、荒川の河川敷へのアクセスが限定している中で、グラウンドなどは目的があって訪れるが、水辺公園の利用、にぎわいはどのような状況か。	通常は散歩やランニングで利用されており、比較的人がいるような状況である。
	K2	ちゃんと使われているのであれば問題ないが、使われていないとすると一工夫する必要があると感じている。	日常ではなくても季節ごとにいろいろなイベントを行っていて、川に人が近づきやすいような印象を持てるように管理を行っている。
全般	K3	大前提として、推進計画の対象期間が今後 20～30 年であり、現状から大きく変えられる可能性があると考えられる。その可能性を活かせるといいと考えている。	当日は意見として伺い、回答なし。
	K4	前回と今回の違いは well being というキーワードが入っているという点であり、河川というものが河川敷も水辺も水のあるところも含めて豊かで安全な生活を支えるための都市の装置であると考え。都市側の視点を活かして健康・well being のキーワードに表されるような価値を作り出していこうということ、川と街の関係性をもう一度見直していこうというのが重要なポイントであるという気がしている。もう少し強いメッセージ性があってもいい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	K5	荒川放水路は、当初はいきなりできた人工物という感じだったが、徐々に自然な河川として認知されるようになり、高度経済成長期には川と街が乖離しているという状態だったものが、30 年くらい前から変わってきて現在に至ると思う。そのようなトレンドを踏まえてもう少しここでジャンプできるといいかと思っている。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
全般	K6	今後沿川市区が河川空間に対し何がしかのアクションをされることになるが、その段階で現場レベルからフィードバックしたくなるものが出てくるような気がするが、そういうものを推進計画で受け止められるようにはなっているのか。	できるかどうかは内容にもよるが、今後の計画の PDCA サイクルの中でこういった話も自治体さんとしていくことはできると思うし、日頃からの付き合いもあるのでぜひご意見聞かせていただければと思っている。
	K7	PDCAサイクルの中で、上位計画にフィードバックすべき事項があれば反映いただき、もし全くないようであればそういうものが出てくるレベルぐらいまで深掘りしていただけるといい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	K8	今後河川空間を変えられるという考え方に立つと、もうちょっと新しいアイディアとか工夫が出てくるのかなと感じるが、今後のアクションについてはどういうスタンスで地区別計画を作られたのか。	地区別計画については、推進計画で定めた大きな視点に基づいて土地利用のゾーニングを行っていくというのが一番大きな点になる。そのゾーニングに従って、特に水辺空間の再整備を予定している箇所については、かわまちづくり制度なども使いながら具体的に進めていくことになっている。その中で役割分担やできることできないことを話していくというものになる。具体的な整備の内容までは、地区別計画の中では示していない。
	K9	地区別計画はベースの部分だけでその後のアクションについては、今後の個別の検討という割り切り方として理解した。自治体が膨らませられるという前提で、ぜひ今後も取り組んでいただけるといい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	K10	河川敷を避難場所や緊急用河川敷道路など防災空間として位置づけるというコメントも多数あったが、特に河川敷道路は、首都直下地震の時にはものすごく重要になると思っている。首都直下地震の時には一般の道路はほぼ動かない状態になると思われるので、河川敷道路の交通機能を改めて認識いただきたい。また、今後 30 年を考えると、水面は舟運のみならず、ドローンの通り道になると考えられる。その辺も頭に入れて、防災の位置づけをしっかりと考えるといいと思った。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
全般	K11	加えて、東京都は河川敷を避難場所に指定しているが、どこの区も、市街地側で火災が発生すると、数万人規模で河川敷に避難し、さらに長い時間、その場に滞在することになると考えられる。そのような状況を想定し、利用頻度は少なくとも、河川敷にトイレをなるべくたくさん作っておくなど、事前に準備しておく、被災した時に役に立つ。	防災の話は別の協議会で議論しているため詳しく書ききれないところもあるが、大きな考え方のようなものは記載できないか検討をしたい。トイレの問題は、自治体で設置いただいても、日常の維持管理費用の問題や、水位が上がってくると撤去をお願いしていることもあり、維持管理の問題をどのようにクリアしていくかが課題であると考えている。

荒川将来像計画 地区別計画 有識者ヒアリング
東京家政大学 鈴木 伸治先生
議事要旨

■日時：令和 6 年 10 月 31 日（木）10:00～11:30

■場所：横浜市立大学

	No.	発 言	回 答(当日発言)
戸田市	S1	土砂仮置場の利用はいつまでか。	土砂仮置場については、荒川下流河川事務所が工事のために使っているところであり、工事のボリューム次第である。川口市の高規格堤防事業など、大きな事業が継続的に続くためいつまで使うかは示しづらいところである。
	S2	河川空間のオープン化という大きな変化の流れを汲んで、新しい取り組みをしようと思われている部分はあるか。	土砂仮置場については、見栄えや住民が近寄りづらいという問題があるため、徐々に減らしていつ計画に近づくようにしていきたいと思っている。
	S3	ボートコースの利用者は大学生が多いのか。	一般市民も利用するが、学生がほとんどである。
	S4	かわまちづくりの担い手として、ボートコースの利用者は期待できるか。	たまにレガッタの練習を荒川でやっているのを見かけるので、そういう方たちがもっと利用できるようにしてきたらいいと思う。
	S5	ボートコースの利用者を街づくりの担い手として期待できるとしたら、戸田市にとって期待できるゾーンになるかもしれない。利用調整が大変な部分があるかもしれないが、市民会議やボランティアとは違う関わり方をしていただける新しい担い手を確保していくことで、新しい河川行政にどう対応していくのかという視点も感じられるようになると良いと思う。	学生がゴミ拾いとかを積極的にやるという連絡も市の方に来ているので、そのように若い人たちに荒川に関わっていただけるのはよいことだと思う。
川口市	S6	ゴルフ場の割合が大きい、広域避難場所に指定されているのか。	荒川運動公園は、ゴルフ場もかなり広大な芝生となっており、広域避難場所に指定されている。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
川口市	S7	普段、市民がゴルフ場に入ることはあまりないのか。	国土交通省の水辺の楽校の事業に認定されており、年に数回、小学校低学年を対象に半日くらいゴルフ場を開放して、虫取りなどを行っている。また、年に1回、荒川ふれあい祭りでゴルフ場一帯を開放し、市民の方に出し物などを出してもらい楽しんでいただいている。
	S8	避難をするといっても日常的にそこに入る経験がなければ分からない、イメージがわからない恐れがあり、ゴルフをやらない時間に市民の方が散歩できるようにするなど、周辺住民に開かれた使い方を進めるとよい。すでに一部開放をやられているということなので、うまく防災意識の向上に結び付けていただければと思う。	今後も防災などの観点から市の事業と連携しながらやっていきたいと思う。
	S9	河川空間のオープン化について、力を入れていきたいと考えているところはあるか。	バーベキュー広場は広く市民のみならずいろいろな方に来ていただいて、ニーズの高いところになっている。2年ほど前から11月いっぱいまで期間を延ばしており、活性化に寄与している。
	S10	防災船着場の周辺一帯をリバーステーションとして活用していくということか。	高規格堤防事業を実施しているエリアで、荒川下流河川事務所と川口市でどのような活用がいいのか、これから協議をしながら検討していくことになると考えている。
北区	S11	旧岩淵水門の位置づけは怎么样了。	今年の8月に重要文化財に指定されたところ。
	S12	旧岩淵水門の周辺は、荒川のいろんなことを知ることができる貴重なゾーンであると考えており、まち側からのアクセスの部分を向上できないかと思うが、そのような計画はあるか。	かわまちづくりを導入してにぎわいを創出していくというところを現在検討しているところである。前回のかわまちづくりの中で新志茂橋の拡幅のほか、堤防デッキなど人が寄り付きやすい改修が図られたところであり、今回は第二弾として赤羽岩淵水門を含んだエリアを中心に、橋を利用しながら人になるべく入りやすいような形を検討しているところである。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
北区	S13	歩きやすさ、歩行者空間の整備が重要ではないか。	志茂地区一帯が住宅密集市街地になっていて、特区制度を利用して密集市街地の解消事業に取り組んでおり、歩行者が歩きやすいように 6m くらいの道路を入れていく計画は現在も進めている。
	S14	かわとまちの接点が重要であるが、新河岸川の方はどうなっているのか。	新志茂橋の他、岩淵橋、中の橋など新河岸川上の橋梁を活用して、新河岸川沿いのテニスコートや都立浮間公園の人の流れをうまく誘導していくような形で計画させていただいている。
葛飾区	S15	基本的には、自然公園とスポーツ・レクリエーション的な利用が主な利用となっているのか。	新小岩公園ブロックにある葛飾あらかわ水辺公園の利用形態が変わっていくことになる。
	S16	沿川住民のニーズは変わっているのか。	大きく変わってはいない。休日は野球場、サッカー場は地域の子供たちが非常に多く利用しているが、子供向け、大人向けで区分しているので大人の方も利用している状況である。日常的にはサイクリングやランニングをしている方を見かける状況である。
	S17	中川を挟む形になるため、まちから荒川へのアクセスが課題になると思うがいかがか。	車ででの乗り入れは積極的ではないが、小橋を利用して人の行き来ができるようにしている。
墨田区	S18	河川のオープン化の観点からこのエリアでやれそうなことはあるか。	区内では墨田川、北十間川のかわまちづくりを企業、自治体、地域住民が連携して取り組みかわまちづくり大賞をいただいた実績がある。一方で、荒川を見ると企業から何かをしたいという要望は上がっていない状況である。墨田区としても企業からの要望があれば検討していきたいと思っている。
	S19	地形的に厳しいという部分もあると思う。	駅が近くにありアクセスは悪くないが、現時点では企業側にメリットが少ないため事業化に至っていないのではと考えている。
	S20	どうしても隅田川、北十間川沿いに注目がいつってしまうため、難しいところではあるが、駅に近いのはメリットであるので、ポテンシャルを活かしてやっていただけたらと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
江東区	S21	地形的にスペースはないが、市民活動は活発なイメージがあるので、続けていっていただきたい。また、区独自のプログラムも多いと思う。	「エコックル」という環境に特化した施設があったり、維持管理の方でもボランティアが活動したりしている状況である。
	S22	区内では外国人の方は増えているか。	よく見かける。インド系の学校もある。
	S23	推進計画でも多様な方に使っていただくという話があったが、サインの設置など、多様な文化を持つ方々に使っていただくような取組はないか。	河川におけるサインについては、自治体が占有している利用地内は自治体で、河川全体のものでは河川管理者が管理をしているので、どちらにしてもそういった取り組みはできる。
	S24	多言語化などの取組はされているのか。	区内の施設では外国人利用者の多いところから多言語化が進められているが、河川敷の利用者は比較的少ないため、あまり進んでいない状況。
江戸川区	S25	ロックゲート周辺のイメージはどんな感じか。	100 周年記念事業のカウントダウンフェスを開催し、その際にどのような利用がしたいかアンケートを実施したほか、試験的にスケートボード場の設置を行った。
	S26	アクセスについてはどうか。	駅から遠いところが課題ではあるが、ポテンシャルはあると思っている。
	S27	外国人は多いか。	インド人が葛西あたりに多いが、河川敷利用者という感じではない。
全般	S28	災害時に外国人をどう誘導するかといったような危機管理的な問題は以前からあったが、あまり進んでいないという印象がある。防災危機管理は荒川が担う大きな役割だと思うので、そのベーシックな部分をどうやって底上げしていくかが気になっているところである。	当日は意見として伺い、回答なし。
	S29	河川空間のオープン化については、全国的に見てもロケーションのいい場所はポテンシャルが高い。ポテンシャルがあると判断できるところは優先的に取り組むべきだと思うし、そうでないところ無理して進めるってということでもないと思っている。そういうポテンシャルを感じている人がどこにいるか常にアンテナを広げ、オープンな議論の中でポテンシャルを探していただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
全般	S30	都市側の空間整備は基礎自治体にしかできないところではある。ポテンシャルの高いところに向けて、街の方からアクセス性を高めていくということは災害時にも生きる重要なポイントであるので、都市計画でそういった方針が示されているのであれば、この平面図の方に関連事項として情報を記載してもいいのではないかと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。
	S31	障害者への配慮、ユニバーサルデザインといった記載が少ないと思う。高齢化が進む中、高齢者がどう荒川を使えるかという視点が重要になってくると思う。	当日は意見として伺い、回答なし。

荒川将来像計画 地区別計画 有識者ヒアリング
東京家政大学 知花 伸治先生
議事要旨

■日時：令和6年11月7日（木）14:30～16:30

■場所：政策研究大学院大学

	No.	発言	回答(当日発言)
戸田市	C1	第2次戸田市マスタープランの目標年次は定められているか。	2035年としている。
	C2	川づくりの基本方針のところで、水と緑のネットワークであえて荒川を水ではなく緑の軸とするのは、どういうことか。	公園課がメインで検討している内容であり、緑を増やして水と緑を一緒に考えていこうというものである。
	C3	計画図の②で自然再生、④でエコアップによる水辺の多様性向上、その間にグラウンドがあるが、緑の軸とどういう関係にあるか。	自然地の間が野球場になっているので図面上切れているがそこをつなげていこうというものである。
	C4	環境面からは、例えば虫を想定すると、緑が細くてもつながっていた方がよい。上流から下流まで緑が一定間隔となっているが、緑の軸との対応関係を確認してほしい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C5	土砂置場がいつまでにどうなるかという計画はあるか。	荒川下流河川事務所の工事で使っているところであり、事業地からのアクセス等を考慮し確保している状況。高規格堤防の工事などで大きな需要があり、10年くらいはピークが続くという状況であり、いつどこにという計画はない。
	C6	自然系と利用系で自然系が48%という数字はいい値だと思うので、続けていただければと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C7	不法投棄とかホームレスについてはどうか。	ごみ拾いをしているなどはあるが、不法投棄の連絡は市には入ってきていない。
	C8	④のエコアップについてはどうか。	④のU字溝はすでに素掘りになっていて目的は達成しており、管理を行っていくところである。
	C9	自然環境の改善とあるが、④の下流側の自然地はどのような状況か。	藪まではいかないが、ところどころに高木や素掘り側溝があるような状況である。
	C10	自然地の割合も大事だが、質が今後重要になってくるので、ご検討いただければと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
川口市	C11	浮間ゴルフ場の中の水辺の楽校は、誰がどうい う活動をやっているのか。	公益財団法人がゴルフ場の経営を行って おり、例えばゴルフ場内の池などでザリガニ 釣りやトンボを捕まえるといった自然体験を 実施いただいている。
	C12	一般市民が応募して中に入れるということか。	現状ではゴルフ利用であるので、利用日を 決めて、基本的には市内の小学校低学年 生などを対象に実施をさせていただいてい る。また、年に1回ゴルフ場全面を開放して お祭りを実施しており、近隣の方々含めゴ ルフ場内で遊んだり、自然学習を実施した りしているところである。
	C13	河原町原っぱは、環境学習が入っているが、こ れも小学生の教育の場となっているか。	河原鳥原っぱは、荒川夢クラブという団体 が子供などを集めて自然体験学習などを 実施している状況である。
	C14	トイレはどこにあるか。	荒川運動公園にラグビー場、バーベキュー 広場、ドッグラン場があり、そちらにトイレを 設置している。
	C15	ほとんどがゴルフ場でゴルフに用のない人は入 れないような印象があったが、トイレの利用はあ るか。	緊急用河川敷道路や堤防上でサイクリング や散歩をされている方が立ち寄れるような 形になっている。
	C16	荒川大橋の下が自然地になっているのは、何か 整備する予定はあるのか。	川口市では公園の整備を行っており、市有 地もあるので自然地とさせていただいてい る。将来的には、高規格堤防の整備の予定 もあり、整備状況を踏まえながら見直しを行 っていく形になると考えている。
	C17	高規格堤防の河川敷側では何をするのか。	河川側については、市の方で占用しており、 荒川下流河川事務所と今後の利用につ いて検討させていただく予定である。
	C18	利用地の割合が非常に多い印象。新たに整備 する高規格堤防周辺の河川敷では、自然系と利 用系の利用の割合はどうなっているか。	市の計画としては、利用系となっており、ス ケートボードパークのようなものを想定して 計画を検討中である。
	C19	利用地、公園などを整備するにしても、水辺の 散策路を設置するなど、自然の要素も取り込ん でいただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C20	自然地と利用地の割合の目標はあるか。	目標は特にない。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
川口市	C21	JR 橋梁の上流側の土砂仮置場はどうなっているか。	荒川下流河川事務所が工事で活用しているところであり、活用が終わった後には自然地や利用施設という形で整備を計画していくことを考えている。
	C22	赤羽側から来るときも一番に見るところになる。アクセス性もよく、非常に貴重な空間なので、是非いい空間をデザインしていただければと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。
北 区	C23	形はもう出来上がっている印象があるが、これから整備するものはあるか。	赤羽岩淵ブロックの中央部については、完成している区間であるが、旧岩淵水門が重要文化財に指定されたことやバーベキュー場の利用が活発であることから、賑わいを呼び込むといった目標を立て、かわまちづくりを計画しているところである。
	C24	青水門を渡ったところにあるグラウンドおよびその周辺はどうなっているか。	自然地を誘導する場所になるが、昔から少年野球場として利用しており、将来的に野球場の利用が終わったら、自然地として活用する予定である。
	C25	子供の水辺の利用状況はどうか。	10 月中旬から末にかけては水辺の部分でかいぼりを行うなど、地元の方、ボランティアの方を中心に活発に活動いただいている状況である。
	C26	ワンドの形とか土砂が溜まった時の維持管理は、行政の方で手入れをすることにはなっていないのか。	行政が裏に入ってバックアップしつつ、市民団体とともに活動している状況である。
	C27	トイレは何箇所あるか。	新荒川大橋を挟んで上流側と下流側に1箇所、豊島ブロックに2箇所ある。
	C28	防災ステーションとの接続とあるがどのようなイメージか。	現状は河川敷や堤防を歩いている人が利用できるような形でトイレなどを開放しており、駐車場と併せて管理している状態である。防災ステーション周辺のオープンスペースを使いたい、子供に遊ばせたいというお話もあり、今後、そこを有効に使って人が集まるような形で検討できないか考えている。
	C29	駐車場は自由に使えるか。	車の出入りはできない。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
北区	C30	防災ステーションは水害対策普及啓発の場としているので、見学会などでもできるといいかもしれない。四阿などもあるので、堤内地もセットで見学とかもできればと思う。いろいろ工夫されている印象があるので引き続きやっていただけたらと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。
葛飾区	C31	新小岩公園ブロックでこれから整備を進めていくといったのはどこか。	このエリア全域である。最初、平成7年に整備され、その後令和2年から再整備に向けた検討を進めており、令和4～5年で方針について検討を進めているという状況である。
	C32	土地利用区分はもう決まっているのか。	現状のざっくりした配置案をもとに土地利用区分の色分けを行っており、この案に基づいて検討を進めていきたいと考えている。
	C33	グラウンドが間にあるイメージか。	地域住民からは、スケートボードパークやドッグランなどの要望がある。
	C34	ワンドの維持管理とはどういうことをされているか。	直接的に何かを行っているわけではない。
	C35	国、区、市民の手が回らない、お金がつかない、ということで管理がなあなあになる。そうすると目標と合ってこなくなるので、誰がどうやって実施するか、活用するかというのが大事だと思う。そういう意味でここは今水辺の楽校などで活用されているのか。	今はあまり活用されていない状況。今後の再整備の中で、水辺の再整備を進めていくというのが一つじゃないかと思う。
	C36	緑のネットワークについて、グラウンド間の小規模自然地はあるか。	色分けとしては入れていないが、野球場やサッカー場の間に一定間隔で緑がある。
	C37	不法投棄やホームレスについてはどうなっているか。	不法投棄はない。ホームレスは、以前はいたが、最近は減ってきている印象である。
	C38	堀切菖蒲園と一体となった風景づくりとあるが、菖蒲園はどこか。荒川と菖蒲園のつながりが出せるとよい。	図面上には載っていない。場所としては離れているが、葛飾菖蒲祭りと連携してやっている。
	C39	トイレはあるか。	スポーツ施設などのポイントにある
	C40	車では入れるか。	グラウンド利用の方は、駐車場があるので使っている。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
葛飾区	C41	グランド利用者は駐車場が使えるが、自然地利用者は使えないことに対して要望はあるのか。	駐車場のみを利用したいという要望はない。自転車やランニングで河川敷に入ってくる人が多いので、車利用はそこまで求められていないと認識している。
	C42	計画と現状で違うところは、京成線の土砂仮置場のところか。	令和19年度までの利用となっていて、そのあとに自然地ということになっている。土砂仮置場となっているが、実施は、工事ヤードという形で使われている。
墨田区	C43	木下川下流スポーツエリアの入れ替えについて、どのように入れ替えたのか。	木下川橋下流部の自然保全エリアと位置が逆だったが、高潮対策工事に伴って入れ替えを行っている。自然地を減らすことが無いようにしている。
	C44	スポーツエリアの整備は終わっているのか。	終わっている。野球場、サッカー場それぞれ2面ずつある。
	C45	木下川橋下流部自然保全エリアはどうなっているか。	荒川下流河川事務所が土砂仮置場として利用している所になる。河川工事が終わった後には、自然地になると思われるが、区が直接管理している場所ではないという認識である。
	C46	その上流の墨田水門自然観察エリアはどうなっているか。	ここは、1996年の基本構想の時に荒川下流河川事務所と自然生態園という構想があったが、それから30年が経ち、経済的な理由などからやめることになった。自然なままではあるが、墨田水門から見下ろすこともできるので、緑があるのはいいことかと思っている。
	C47	ヨシ原の再生についてはどうなっているか。	区でヨシ原を再生していこうという考えはないが、自然地を減らすというわけではない。
	C48	自然環境の保全・再生というのは、荒川下流河川事務所の役割ということか。	例えば、区で占有している水辺公園ではヨシが生えてくるようになっているので区で管理している。
	C49	自然保全エリアは藪になっている所が多い印象があるが、きちんと管理されている所はいい感じになるので、うまく分担しながら手を付けるところはつけていけるといい。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
墨田区	C50	トイレはあるか。	4基ある。
	C51	駐車場はどうなっているか。	上流部のスポーツエリアでは、休日のみ、野球場、サッカー場利用者のための駐車場として開放している。土曜日、日曜日、夏休みとか野球場の利用のある時だけ解放しているので、荒川ではどこもいつでも利用できる形にはなっていないと思っている。
	C52	水辺はずっとヨシ原なのか。	水門のそばに自然利用地があるが、水に近づけるような形ではないので、基本ヨシ原を眺めていく形になる。以前、水辺公園含めて荒川下流河川事務所と一緒に記念植樹をした場所はあるが、基本ヨシ原がベースである。
	C53	自然系と利用系の割合はどうか。	ほぼ半々である。墨田区は河川敷の面積が狭小な中で運動場を整備を進めてきたところであるが、今後新たなニーズがあれば、荒川下流河川事務所と相談しながら進めていきたいと考えている。
江東区	C54	多目的地の所の表面はどうなっているか。管理は行っているか。	だいたい芝であり、管理を行っている。
	C55	トイレはあるか。	5箇所ほどある。
	C56	テニスコートに駐車場はあるか。	駐車場はない。
	C57	水際はずっとヨシが生えているような感じか。	ほとんどがヨシの植生になっている。
	C58	干潟には降りられるか。	一般開放はしておらず、普段は閉鎖されている。
	C59	自然地と利用地の割合はどうか。	4:6くらいである。
	C60	エコスペースの植生の管理はしているか。	NPO 団体が植生調査を実施しており、区では年 1,2 回草刈りを実施している。
	C61	土砂仮置場はないのか。	河川敷内にはなく、外にはあるが小さい。
江戸川区	C62	左岸・中堤ブロックは全面コンクリート張りではなかったか。	河川敷は草地で、首都高の下部分はコンクリートになっている。
	C63	荒川ロックゲート周辺の防災・にぎわい拠点化とはどのようなイメージか。	荒川下流河川事務所、大学、江東区、東京都などが関係機関として、にぎわいづくりに向けてどういう利用をしていくかということを検討しているところである。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
江戸川区	C64	トイレはあるか。	小松川ブロックに関しては、小松川運動公園や小松川千本桜に設置している。
	C65	「干潟を良好に保全します。」とあるが干潟ヨシ原の保全はどうしているか。	他の自治体と同じだが、区では河川敷の自然地の管理は行っておらず、クリーンエイドなどのボランティアのゴミ拾いなどと連携して保全しているという形である。
	C66	ボランティアは、市民団体が募集しているというよりは小学校単位で来るイメージか。	ボランティア登録をしてもらっていて、ボランティア団体のホームページでイベントごとに募集している。
	C67	小松川ブロックは背後地に広大な公園があるので、河川敷とのつながりという意味で検討の余地はあるか。	現状、導線も悪くないと思う。
	C68	小松川千本桜や背後の公園、東京都が整備している旧中川ともつながっていくといい。	当日は意見として伺い、回答なし。
全般	C69	各市区の状況はよくわかった。これを横に並べた時にどうなるかという点を確認いただければと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C70	自然地と利用地の割合について、必ずしも 5:5 にする必要はないが、今後グラウンドが欲しいという要望が出たときには代替地の確保を考えながら、自然系と利用系の割合を常に気にしながらやっていただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C71	荒川はヨシが生い茂っていて水際の印象があまりない。一方で、グラウンドが点在する中で、緑の連続性を作りやすいのは水際である。局所的に階段護岸など水辺に親しめるところがあるとよいが、水際の植生の管理をやる人が現在不在になっている。水際のあり方、今後の管理について考えていただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C72	自然地の場所に土砂置場を設置し、いずれはなくなれば自然地にするという場合が多い。それがいつなのか、自然地に戻せるのか、というのは疑問であり、市民からもよく聞かれる点である。土砂仮置場をどのように計画に位置付けるのか、考えていただきたい。	当日は意見として伺い、回答なし。

	No.	発 言	回 答(当日発言)
全般	C73	自然地の管理については、国や自治体にも予算が付かない中、管理が難しい状況にあり、不法投棄やホームレスの巣窟になるという問題がある。市民団体に任せるのも担い手の高齢化などの課題がある。そのため、民間のお金をどう入れていくかというところを考えざるを得ない時期に来ていると思う。ディベロッパーや教育支援の会社などとの連携や、TNFD や TCFD などの活用も並行して考えていかないといけないと思う。堤内地との関係を大事にしてもらいたい。	当日は意見として伺い、回答なし。
	C74	防災時の一時避難場所としての活用を考えた時に重要なのはトイレ、水、電気である。駐車場も現状はグラウンド利用者のためとなっているが、地震時に車両が止められる空間もあった方がいい。防災という観点で空間を創っていくときに、どこから入ってどう移動するかという空間の接続も並行して考えていただければと思う。	当日は意見として伺い、回答なし。